

# 北海道浮魚ニュース

平成 27 (2015) 年度 21 号

2015 年 11 月 17 日

道総研 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎ 11 月道南太平洋スルメイカ調査結果

木直沖のスルメイカ分布密度は過去の同時期の調査との比較では低い値であった。外套長のモード (最も多かったイカの大きさ) は 21cm にあった。

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間 : 2015 年 11 月 11 日 ~ 11 月 13 日
- ・ 調査海域 : 道南太平洋、津軽海峡

昨年 (2014 年 11 月 11 日 ~ 11 月 12 日) 及び過去 5 年のデータと比較しました。

### 1. 水温 (図 1、2)

漁獲調査点 4 地点のうち、木直沖 St.1 の水温は昨年より表面で 0.2℃、水深 50m で 0.1℃高くなっており、函館沖 St.16 の水温は昨年より表面で 1.2℃、水深 50m で 0.2℃低くなっていました。下北半島沖 St.8 と浦河沖 St.15 は荒天により調査を実施できませんでした。海洋観測を実施した室蘭沖から津軽海峡にかけての水深 50m 層の水温は、室蘭沖から渡島太平洋側の海域ではおおむね 13 ~ 14℃、函館沖から津軽海峡東口にかけてはおおむね 14 ~ 16℃の範囲にありました。

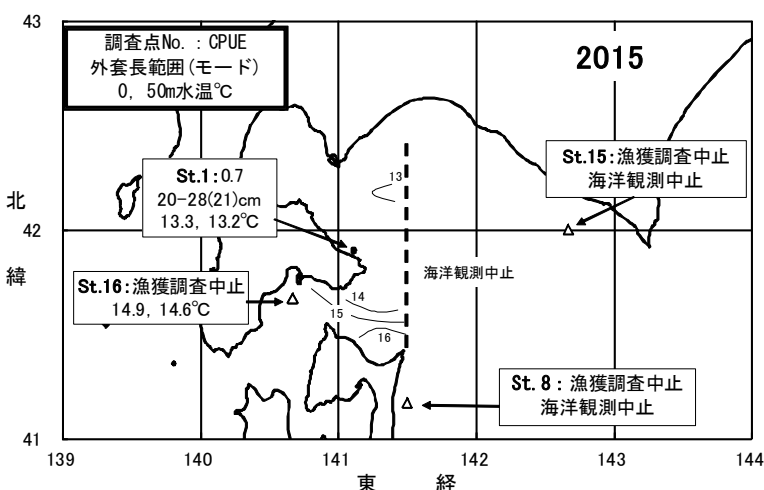


図 1 2015 年の漁獲調査結果と水温 (11 月 11 日 ~ 11 月 13 日)

●は漁獲調査点を示し面積は CPUE に比例。△は漁獲調査中止。等温線は 50m 水深の水温分布。

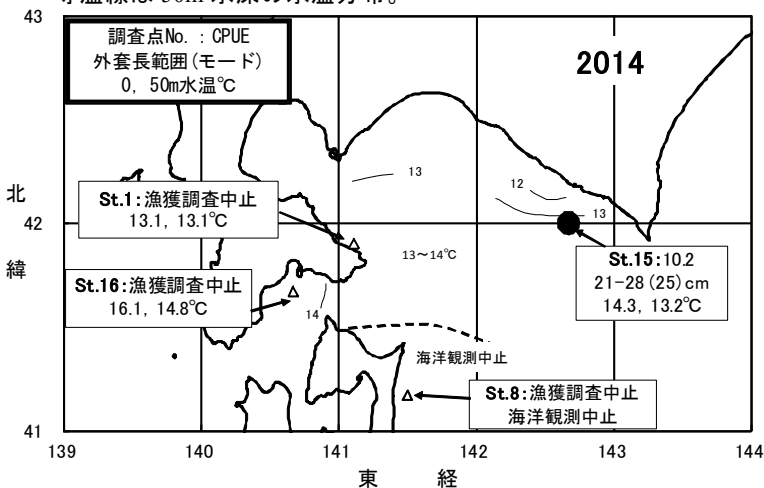


図 2 2014 年の漁獲調査結果と水温 (11 月 11 日 ~ 11 月 12 日)

●は漁獲調査点を示し面積は CPUE に比例。△は漁獲調査中止。等温線は 50m 水深の水温分布

表 1 2010 年以降の各調査地点の CPUE と海域全体の魚体サイズ。

	2010 (H22) 11/11-11/12	2011 (H23) 11/7-11/11	2012 (H24) 11/5-11/9	2013 (H25) 10/28-11/1	2014 (H26) 11/11-11/12	2015 (H27) 11/11-11/13
St. 1 (木直沖) CPUE	15.0	1.4	3.0	6.1	-	0.7
St. 8 (下北半島東沖) CPUE	-	1.1	0.2	0.9	-	-
St. 15 (浦河沖) CPUE	-	0.04	-	53.7	10.2	-
St. 16 (函館沖) CPUE	-	2.4	0.9	0.5	-	-
平均 CPUE (尾/台・時間)	15.0	1.2	1.4	15.3	10.2	0.7
外套長の範囲 (cm)	17-30	12-29	4-25	15-29	21-28	20-28
各地点の外套長モード (cm)	24, 26	24-26	19, 22	16-24	25	21

## 2. 分布密度 (図 1、2、表 1)

荒天のため漁獲調査点 4 点のうち木直沖 St.1 のみで漁獲調査を実施しました。CPUE は 0.7 で、過去 5 年 (4 回) の同じ地点との比較では最も低い値となり、過去 5 年の全調査地点の CPUE との比較でも、下から 4 番目に低い値でした。

## 3. スルメイカの大きさ (図 1 ~ 3、表 1)

木直沖 St.1 で漁獲されたスルメイカの外套長は 20 ~ 28cm (昨年の浦河沖 St.15 では 21 ~ 28cm) の範囲にありました。外套長のモード (最も多く漁獲されたイカのサイズ) は 21cm (昨年浦河沖 25cm) でした。

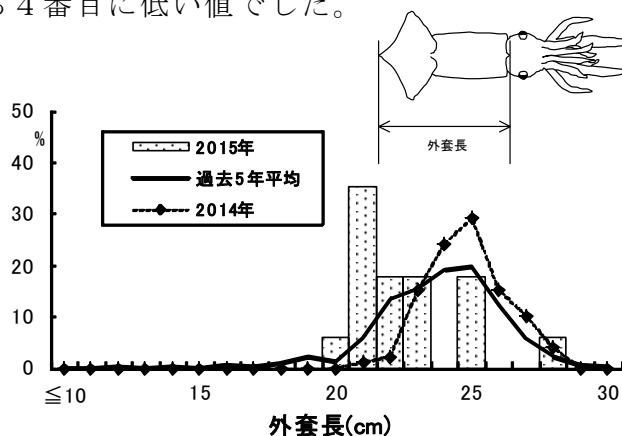


図 3 調査海域全体のスルメイカ外套長組成

(函館水産試験場調査研究部 TEL : 0138-83-2893、FAX : 0138-83-2849)